

## 第3回 南海地震津波対策検討会本部 PT 会議録

### 市長あいさつ

次の南海地震はいつ来てもおかしくないと言われており、この対策は地震・津波に弱い宿命にあります須崎市にとって、どう対応するかという事が最大の課題です。

3月11日の東日本大震災を目の当たりし、4月5日に南海地震津波対策検討会を立ち上げ、WGを中心に地域の皆さん・学校なども含め、地域の代表者と一緒になって、この避難計画を取りまとめて頂きましたことに感謝しています。

この計画案につきましては、地域の皆様を巻き込んで、市制始まって以来の取り組みであったと考えております。

課題・問題点も数多くあると思いますので、地域へ帰って地域の皆様と一緒に協賛・修正を行い、より実効性のあるものにしていくことが大切です。地域の防災連絡協議会、要援護者の協議会も出来ましたので、そうした皆様と連携して、犠牲者を絶対出さないという意識を持って、検討・協賛をよろしくお願いします。

城山総合公園の整備について、この会議で出された意見等を行政の計画案に生かして頂きたいですし、各地域の避難路の整備についても行政だけではなく、住民の皆様自ら、自主防災会などで一緒に取り組んで頂きたい。まずそうした事をスピード感をもって実現してほしいです。

ここで確認された事項につきましては、市議会に報告し、11月に予定しています市の防災会議で正式に決定し、訓練等で実践していきたいと思っています。

皆さんの今日までのご苦勞に感謝を申し上げ、そしてこれからの取り組みに活かしていくことを期待申し上げます。

### ・議長（副市長）

この検討会の目的は、とにかく命を守る・市民の命を守るという事を最優先として検討を続けてきた所です。WGで検討した避難場所・避難経路をどうしていくかという事が最重点課題となっており、WGで検討した事をこれからリーダーの方に報告していただき、この会議で検討し、ある程度の方向性を出したいと考えております。

## 本部WG 検討報告

### ・対象別津波避難計画（主な説明内容）

#### 須崎地区

城山公園に関する避難整備及び西町貯水地への避難経路について説明

#### 多ノ郷地区

妙見町の避難先の変更点について

桐間地区の避難場所及び避難先の表示に係る要請

#### 新荘地区

各地域別避難場所の詳細説明

岡本地区の避難場所の整備について

#### 安和地区

各地域別避難場所及び避難方法の考え方を説明

#### 浦ノ内地区

緊急避難場所の考え方として住民会議での意見をもとに、人家の裏山などにすぐ避難することができる地域の高台とすることを報告。

主要避難場所を北岸に3ヶ所、南岸に2ヶ所を設定

#### 吾桑地区

各地域別の避難場所を説明

#### 上分地区

遅越地区までを津波浸水区域と考え、高台にある老健施設を避難場所とした。

### ・避難訓練の検証報告

<日の出保育園>

○園児・保護者・職員 94名参加

一度県道へ出て、西へ進んでエム・セテックの方へ避難

○避難時間 年長児：5分半 乳児：10分半

保育園では毎月1回避難訓練を実施

参加者から

「いざという時パニックにならないように訓練を続ける事が大事」という声が多くあった。

今後の課題

- ・日の出保育園からすぐ前にある造船所を使った最短距離・最短時間での避難が出来ないのか。
- ・保護者への連絡方法をどうするか
- ・オムツ、非常食などの備蓄
- ・早朝保育や延長保育の時間帯の避難はどうするのか
- ・大けがした時の対応

## ※避難方法

従来は、まず園庭に集合、点呼したうえで避難開始という方法をとっていたが、それではどうしても時間がかかるという事で今後、各年齢クラスで集合・避難し、園長が残り誰も残っていないか確認したうえで、避難場所で点呼するといった方法を園長会などで検討中

## <要援護者>

- 原町・新町・浜町を対象に要援護者の方7名（車いす3名・シルバーカー4名）参加  
主に80代の方、1名60代の在宅酸素の方。ケアマネージャー・自主防の方とペアになり目標地であるNTTまで避難訓練を実施。
- 目標地までの避難時間 一番遠い浜町から10分・ほぼ全員10分強  
そこから避難場所の城山まではさらに5～10分くらい
  - ・家を出る時間を出来るだけ早くする事が重要。
  - ・実際の地震では家が倒壊したり・通れない道が出てくると予想されるので、大きい道を通って避難しなければならない。
  - ・要援護者は一人では逃げれないので逃げる班のようなお互い同士の助け合いが大事。
  - ・命を守る、逃げる為には“足腰をしっかり鍛えておかないといけない、維持していないといけない”という意見もあった。

## ※避難場所について

車いすやシルバーカーをつくる人が命を守る為の逃げる場所として検討した。各地域の避難場所に避難する事が先決である。ただその避難場所に避難するには、以下のとおり

- \*避難した場所で6時間、雨風をしのぐ事が出来るか。
- \*道幅・車いすの人が避難しながらその他の人達も一緒に避難出来る道幅があるか。
- \*車いすで一人で行けるのか。という事で、3つの項目で検討した。

◎すべてクリア出来たのは3か所（坂ノ川公民館・元亨院・山桜の里）

## 今後の課題

地域等の自主防の組織化が急がれる。

台帳を整理し、本人・家族の了解を得たうえで自主防などへ情報提供していく必要がある。

～避難の際に使える物～

車いす・シルバーカー・リヤカー・おんぶ紐（各自・地域で整備しておく）

9月4日にグループホームの避難訓練 実施

○避難時間：約15分

現在、避難場所を小学校としているが、直接清流荘へ避難した方がいいのではないかという事で認知症の方7名を車で避難。グループホームや支援のいる人の車の使用というのもこれから検討の課題になってくる。

## その他、質疑等

Q くすのき園は 100 人ぐらい入所しており、海岸から近く、すぐ津波が押し寄せてくる場所に有りますが、避難場所・避難道路は検証されていますか。

A くすのき園の問題は当初から課題に挙がっています。整備はしたけれど高さが足りないのので、中ノ島方面へ避難する方法がないのかという事で検討している。現場や福祉事務所と一緒に検討しているところである。

Q 城山の防災公園が出来るのはどれくらい先なのか。

A 明確には答えられないが、防災公園と市民の憩いの場と 2 通りで整備する。

優先順位としては、もちろん避難場所の方を最優先してやっていきたい。

現時点で 5 年以内をめどに整備したいと考えている。

Q 消防団が、一人暮らしや要援護者の方々を時々訪問して避難の事などを話し合っただけの方々との連携を持ちたいという話をしたのですが、個人情報の問題があるから出来ないという事でしたが、自主防災会とは連携をしていくが、消防団とは問題がありますか。

A 今後、地域で支援が必要な人達に、社会福祉協議会を中心に民生委員さんと包括支援センターと一緒に、要援護者の台帳整理を行っている。一番津波の心配な須崎地区、多ノ郷地区から整理をしていっているのですが、本人や家族に自主防災会や消防に情報提供していいか承諾を得るようにしています。それらをもとに内諾を得た方の情報は地域の自主防災会や消防と共有しなければならないと思っています。日頃からそういう活動の中で情報を共有する事は大事。

## ・各関係機関からの主な意見等

### 須崎土木事務所

県としては避難路や避難場所の整備に役立つ事があればお話し出来ないかと色々検討しています。

この事業は、市などの負担金が必要となる事業です。須崎市はたくさんの事業費がいる事が予想されますので、経済的な方法を一緒に考えていきたいと思えます。

### 南海地震対策課

県の方も南海地震対策で 9 月補正に津波の避難関係で約 3 億 8 千万円の補正予算も積みまして避難路とか避難施設の整備に対して補助等をしていく予定になっております。

### 須崎福祉保健所

避難をしてきた方々がケガをしている、病気などその辺の作業系がすぐになされる事が必要であると思えます。市の方で医療救護所が設置されると思うのですが、災害時の医療や薬などそういう事に関して、福祉保健所のほうは情報収集したり、提供したりと

というような事で調整をまずするという事になっています。

福祉避難所という事も書かれてありましたが、まずそういった要援護者、特別に何か介護なりを必要とする方の避難場所が必要になってくるかと思えます。

#### 工科大学 ナタコーン先生

津波を解析し津波はどのようなものなのか、津波が来たらどういう風にどこまでいくのかという事を理解しながら、モデルを作っている。

避難所は市民の命に関わる事なので、危ない所を除くのはその通りだと思います。避難所を選ぶ時に、津波の質を理解しながら選んでいただければと思います。

城山の避難所⇒下から津波が向かって来るとしたら須崎湾の方に曲がって行って、多方向から津波が向かって来るという事も想定しております。

その他の場所でも津波を受けている形になっていますので、津波がきたらだんだん狭くなって行って行く所がないので高くなる。ということは、他の所より津波が上がっていくかと思えます。

そういう津波の仕組みを理解したうえで今後、再検討を協議していただければ幸いです。

工科大では7月にスーパーコンピューターを導入しました。

これに使われている要素は、高知県を対象にした被害の予測をしている。地震が発生してどの様に建物が揺れて、建物が倒壊して、どのくらいの高さの津波がどこまで来て、地震と津波が来た後の町。市民はどういう風に避難していったら一番安全で早いのかという事をスーパーコンピューターで計算出来る様になっています。時間がかかっている計算ではない。四国最速のスパコンという事で、計算の時間はそんなにかからない。

何が一番大変かという、入力データの収集・海底のデータ・地形のデータ・建物のデータ（数、場所、木造なのかRCなのか）データをすべてデジタル化して街を造らなければならない事が一番大変で、時間がかかっている。

今後、工科大で出した結果を活用していただければ幸いです。今後も、よろしく願いします。

#### 議 長

避難場所等につきまして先ほど先生のほうからもありましたが、まだ具体的に国の基準等これからですので、今後新たな地検等が出てきましたら随時見直しをしたいと考えています。

今後このWGでは、避難場所・避難経路の検証をしておりますので。一般の公表はその後ですが、次の課題は二次避難場所・福祉避難場所の選定や整備、プロジェクトチーム、会議の方で検討をしていただきたいと思います。

またその他、意見などがありましたら事務局の地震防災課の方までご連絡いただければ、それも含めて検討等したいという風に考えておりますのでよろしく願いします。